

がん化学療法レジメン登録票

レジメン名	IRd
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永孝生
適応がん種	再発又は難治性の多発性骨髄腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	MM-12
登録日・更新日	2017年8月22日
削除日	
出典	N Engl J Med 2016 374 1621-34
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ニンラーロカプセル	2.3, 3, 4mg	4mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服)	1回/日	day1, 8, 15
No.2	レプラミドカプセル	5mg	25mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服)	1回/日	day1-21
No.3	レナデックス錠	4mg	40mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服)	1回/日	day1, 8, 15, 22

1コースの期間	28日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能() ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	-
計算後の投与量下限値	-

減量・中止基準	<p>【開始基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 好中球数$\geq 1,000/\mu\text{L}$、血小板数$\geq 75,000/\mu\text{L}$、非血液毒性：ベースライン又はGrade1以下に回復 <p>【休薬・減量・中止基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>副作用</th> <th>程度</th> <th>処置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">血小板減少症</td> <td>血小板数$30,000/\text{mm}^3$未満</td> <td>30,000mm^3以上に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。再び30,000mm^3未満に減少した場合は、30,000mm^3以上に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>好中球減少症</td> <td>好中球数500mm^3未満</td> <td>500mm^3以上に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。再び500mm^3未満に減少した場合は、500mm^3以上に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">皮膚障害</td> <td>Grade 2</td> <td>対症療法を行い、投与を継続できる。忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。</td> </tr> <tr> <td>Grade 3</td> <td>Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>Grade 4</td> <td>投与を中止する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">末梢神経障害</td> <td>疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2</td> <td>ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3</td> <td>ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。</td> </tr> <tr> <td>Grade 4</td> <td>投与を中止する。</td> </tr> <tr> <td>上記以外の副作用</td> <td>Grade 3の非血液毒性 Grade 4の非血液毒性</td> <td>ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。投与を中止する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Grade は NCI-CTCAE v4.0 に基づく</p> <p>◆ニンラーロカプセルの減量目安 開始用量：4mg ステップ1(1段階減量)：3mg ステップ2(2段階減量)：2.3mg ステップ3：投与中止</p> <p>・レナリドミド、デキサメタゾンの中止減量基準はRDレジメンに準拠する</p> <p>◆レナリドミドの用量調節の目安 - 25 mg 1段階目 15 mg 2段階目 10 mg 3段階目 5 mg</p> <p>◆デキサメタゾンの用量調節の目安 - 40mg 1段階目 20mg 2段階目 12mg 3段階目 中止</p>	副作用	程度	処置	血小板減少症	血小板数 $30,000/\text{mm}^3$ 未満	30,000 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。再び30,000 mm^3 未満に減少した場合は、30,000 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。	好中球減少症	好中球数500 mm^3 未満	500 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。再び500 mm^3 未満に減少した場合は、500 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。	皮膚障害	Grade 2	対症療法を行い、投与を継続できる。忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。	Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。	Grade 4	投与を中止する。	末梢神経障害	疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2	ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。	疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。	Grade 4	投与を中止する。	上記以外の副作用	Grade 3の非血液毒性 Grade 4の非血液毒性	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。投与を中止する。
	副作用	程度	処置																								
血小板減少症	血小板数 $30,000/\text{mm}^3$ 未満	30,000 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。再び30,000 mm^3 未満に減少した場合は、30,000 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
	好中球減少症	好中球数500 mm^3 未満	500 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。再び500 mm^3 未満に減少した場合は、500 mm^3 以上に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。																								
皮膚障害	Grade 2	対症療法を行い、投与を継続できる。忍容できない場合は、下記「Grade 3」参照。																									
	Grade 3	Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
	Grade 4	投与を中止する。																									
末梢神経障害	疼痛を伴う Grade 1又は疼痛を伴わない Grade 2	ベースライン又は疼痛を伴わない Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、同一用量で投与を再開できる。																									
	疼痛を伴う Grade 2又は Grade 3	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。																									
	Grade 4	投与を中止する。																									
	上記以外の副作用	Grade 3の非血液毒性 Grade 4の非血液毒性	ベースライン又は Grade 1以下に回復するまで、休薬する。回復後、1段階減量して投与を再開できる。投与を中止する。																								
前投薬																											
その他の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・レナリドミド投与期間中は、深部静脈血栓症予防のアスピリン、抗凝固薬等を投与する。 ・带状疱疹の予防として、アシクロビル又はバラシクロビルおよび抗生剤(ST合剤等)を投与してもよい。 ・高齢者、腎機能障害、虚弱などを考慮して減量開始してもよい。 																										

記入者	伊勢崎竜也
確認者	竹内 正美